

●内垣亜優 (2001～)

『チェロ・チェロス・チョリソー』ソロ・チェロのための (2023)

■プロフィール

愛知県立芸術大学音楽学部作曲専攻作曲コース4年在学中。令和4年度愛知県立芸術大学優秀学生賞受賞。第8回日本国際合唱作曲コンクール第3位。これまでに作曲を成木理香、小井洋明に師事。

プログラム・ノート

作曲し始める時に、楽器の名前から何かヒントを得ようと思い、「チェロ、チェ…チェ…チェロス、チョ…チョリソー…」と発音から単語を連想していきました。そこではじめに思いついた「チェロス」と「チョリソー」の2つを「チェロ」と続けて発音した時のリズムカルな語感が面白いと感じ、そのリズムやイントネーションなどからインスピレーションを得て作曲しました。

●室元拓人 (1997～)

『トカラ・イヴォーク』フルート、ヴィオラ、チェロのための (2020)

■プロフィール

東京藝術大学音楽学部作曲科を経て、同大学院修士課程作曲専攻修了。第37回現音作曲新人賞入選、第90回日本音楽コンクール第3位、第11回JFC作曲賞入選、22年度武満徹作曲賞第1位。作曲を鈴木純明に師事。

プログラム・ノート

人はどこからやって来て、どこに行くのか。我々はその究極的な問いに対峙したとき、「あの世」にあこがれ、畏敬の念を抱く。

人が生きているうちには行くことのできない永遠の場所「あの世」に住み、そこから時を定めてやってくる神がいる。これを「まれびと」と呼ぶ。

本作は、鹿児島県のトカラ列島に伝わるまれびと「ボゼ」から着想を得た。息音や擦弦による霞の世界は、普段は見ることのできない「あの世」。そこから神が姿かたちを表すように、次第に楽音のフォルムが浮かびあがる。最後は、再び泡の如く浮遊しながら、魂を「あの世」へ送り届ける。

●山田奈直 (1997～)

『鯨』ソロ・クラリネットのための (2023)

■プロフィール

国立音楽大学作曲専修、および大学院修士課程作曲専攻を首席卒業。音楽以外の何かから得た発想をもとに、全体音響にこだわった作品を創作している。作曲を川島素晴、渡辺俊哉に師事。現在は国立音楽大学博士後期課程在籍。

プログラム・ノート

深海を遊泳する鯨の様子から発想を得た作品です。鯨は、仲間とのコミュニケーションにおいて使用する「鯨の歌」や、遊泳時に自身の位置を把握するために使用する「エコーロケーション」というクリック音、狩猟の際に合図として使用する「フィーディングコール」など、生きるためにたくさんの音を発します。それらの録音物も意識しつつ、鯨という生き物のもつ巨大で静謐なイメージや、深海を孤独に彷徨う鯨の感情を表現することを試みました。